

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和 2 年度採択）

中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-8	PC 鋼材、定着具、鉄筋にステンレス鋼を用いた新たな高耐久プレストレストコンクリート構造の開発	長岡技術科学大学 教授 下村 匠	A
<p><研究の概要></p> <p>プレストレストコンクリート構造の耐久性の飛躍的向上を目的に、鉄筋、PC 鋼材、定着具のすべての鋼材にステンレス鋼を用いることにより鋼材腐食の危険性を払拭したプレストレストコンクリート構造部材の開発・実用検討を行う。</p> <p><中間評価結果></p> <p>耐荷性試験、耐久性試験を含め、計画通り順調に進んでおり、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p><参考意見></p> <ul style="list-style-type: none">・ステンレス鋼を用いる場合は材料コストが高くなるため、コスト抑制方策、維持管理費用などの縮減効果を含めたトータルのメリットを示していただけると良い。・PC 部材とは異なる限界状態の設定の考え方や適用範囲を明確にするためにも、実験結果のとりまとめに必要なデータ項目やデータの取得方法などを十分に検討いただきたい。・実用化に向けては、コンクリート中に異種の金属が混在することに対する腐食耐久性についての設計法が必要と考えられるため、適宜、研究計画に取り入れてもらいたい。・ステンレス鋼の腐食の影響を確認できるとよい。・設計耐用年数 100 年間は一般的な構造物でも想定される期間なので、設計耐用年数 200 年間程度が求められる構造物への試験的な適用を期待したい。			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第 42 回新道路技術会議において審議したものである。